

国道・県道事業への影響

1) 平成20年度国道・県道事業箇所への国の予算配分状況（前回から変更なし。）

	要望	予算配分状況
・臨時交付金事業	80箇所 128.8億円	0箇所 0億円
・その他補助事業	51箇所 126.6億円	37箇所 35.0億円
合計	131箇所 255.4億円	37箇所 35.0億円

2) 工事等の執行への影響

暫定税率に係る関連法案が4月末に再可決されたとしても、道路整備費の財源等の特例に関する法律の改正案が成立していないため、県道や市町村道の大部分に充てられている臨時交付金は依然制度自体が失効したままであり、全く事業が実施できない状況が続くこととなる。

3) 具体的な影響事例

和歌山北インターについては、西日本高速(株)より工事協定の締結を要請されているが、臨交金制度が失効しているため、協定を締結することができず、21年度末完成の目標が大幅に遅れるだけでなく、このまま臨交金制度がなくなると事業が継続できず完成の目途も立たなくなる。

和歌山北インター

和歌山北インターについては、西日本高速(株)より工事協定の締結を要請されているが、臨交金制度が失効しているため、協定を締結することができず、21年度未完成の目標が大幅に遅れる可能性が出ている。さらに、このまま臨交金制度がなくなると事業が継続できず完成の目途も立たなくなる。

理由

西日本高速(株)によると、当該地区の水路付け替えを渇水期（農閑期）に実施し、平成21年4月までに水路付け替えを完了しなければ、耕作者に影響を与え、その結果、工事の施行に大きな影響を与えることとなり、平成20年4月中の協定締結が見込めないため完成が1年遅れる可能性がある。

【参考】

事業概要

- ・ 設置位置 和歌山市（紀の川北岸）
- ・ IC形式 ハーフダイヤモンド型（大阪向き）
- ・ 概算事業費 約30億円（周辺道路整備含む）
- ・ 地域活性化インターチェンジ制度の活用により、県と市が連携して西日本高速(株)と協定を締結し、西日本高速(株)が一括して施行

事業効果

- ・ 和歌山IC周辺の交通渋滞緩和
- ・ 和歌山市北部地域の利用者の利便性向上
- ・ IC周辺をはじめとした地域の活性化

従来の完成予定年度

- ・ 平成21年度

和歌山北IC(仮称)完成イメージ図

